

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成22年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックに対する本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成22年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 22 年 1 月～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、多賀城・七ヶ浜、くろかわ、加美
美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 1 5 0 企業
- (3) 回答企業数 1 4 7 企業

2. 調査対象期間

平成 22 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 22 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 5
建 設 業	2 5
小 売 業	4 3
サービス業	4 4
合 計	1 4 7

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転・長期化)企業割合と減少(低下・悪化・短期化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 22 年 1 月～3 月)の景況調査結果において、産業全体の業況 D I は、前期より 8.5 ポイント改善し△52.2 (前期△60.7) であった。

産業全体の主要 3 D I は、売上額が△54.8 (前期△51.1)、採算が△58.2 (前期△58.0)、資金繰りは△53.1 (前期△47.0) といずれもマイナス幅が拡大した。

業種別売上額は、サービス業が利用者ニーズの変化などの環境変化を背景としてマイナス幅が 11.6 ポイント拡大したが、その他の業種は前期とほぼ同水準で推移した。

一方、採算は、建設業はマイナス幅が縮小し、公共事業の年度末需要の影響も加味しなければならぬが改善がみられ、製造業、小売業は受注単価や販売単価の下降圧力により収益環境が厳しさを増しマイナス幅が拡大した。

来期の見通しについては、建設業を除く製造業、小売業、サービス業において売上額、採算ともに今期実績値と比較して改善が見込まれ、依然として景況感は厳しいが、来期は若干マイナス幅が縮小するとの認識が示された。

全国、東北に比較すると、表 1～4 に見るとおり、各業種とも、宮城の D I 値のマイナス幅は大きく、業種間に跛行性が見られるが、来期売上額については格差解消の見通しはつかないものの、採算見通しについては格差の縮小が予測される結果となった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

サービス業のマイナス幅は拡大したが、製造業、建設業、小売業は概ね前期と同水準の推移であった。

② 採算の状況

D I 値マイナス幅が建設業 28.0 ポイント、サービス業 3.6 ポイント縮小したが、製造業△13.0 ポイント、小売業△10.8 ポイント拡大し、業種間に跛行性がみられた。

③ 設備投資の状況

前期に引き続き全業種が、新規投資を実施しているが、全体的に実施割合は前期を下回った。来期の設備投資計画も、全業種に計画があり、製造業は今期を上回るが、他の業種は同率もしくは下回る計画となっており、総じて低調に推移している。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

製造業は、全国、東北、宮城ともにマイナス幅が縮小した。建設業、小売業、サービス業は全国ではマイナス幅が縮小傾向にあるが、東北、宮城は概ね横ばいとなっており、宮城のサービス業においてはマイナス幅が拡大した。

表—1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 49.0	△ 33.6	△ 49.6	△ 36.5	△ 55.9	△ 53.0
建 設 業	△ 39.4	△ 38.2	△ 32.8	△ 38.3	△ 28.0	△ 28.0
小 売 業	△ 54.6	△ 54.3	△ 57.4	△ 56.6	△ 59.1	△ 62.8
サービス業	△ 50.4	△ 47.7	△ 48.6	△ 51.1	△ 52.1	△ 63.7

② 採 算

建設業は、全国、東北、宮城ともにマイナス幅が縮小し、特に宮城の建設業は28.0ポイントと大きく縮小した。

反面、小売業は全地域でマイナス幅が拡大し、製造業やサービス業は全国で縮小傾向にあるが、業種間において、また、エリア階層間においてD I 値の跛行性がみられた。

表—2 採算の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 47.9	△ 38.9	△ 49.5	△ 43.3	△ 54.6	△ 67.6
建 設 業	△ 50.4	△ 47.4	△ 49.1	△ 44.8	△ 64.0	△ 36.0
小 売 業	△ 47.7	△ 50.9	△ 49.0	△ 57.2	△ 53.4	△ 64.2
サービス業	△ 47.8	△ 46.6	△ 47.3	△ 50.1	△ 61.4	△ 57.8

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額の来期見通しは、建設業はマイナス幅が△24.0ポイント拡大すると予測されたが、製造業、小売業、サービス業はマイナス幅が縮小すると予測され、特に製造業は11.7ポイントの縮小幅が期待されている。

採算の来期見通しについても同様であり、製造業の縮小幅は20.5ポイントと大きい。建設業は、民間・官公需要の停滞、請負単価の低下・上昇難などの要因による先行き不安があり、売上額、採算ともにマイナス幅が拡大する厳しい予測となっている。

③ 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額は、表－3の通り、全国、宮城とも、建設業のマイナス幅が拡大すると予測され、他の業種は縮小するとされたが、宮城の変動幅の振幅が大きく表れた。

一方、採算は表－4の通り、売上額と同様の傾向を示しているが、製造業において売上額は11.7ポイントの縮小幅に対し、採算見通しは20.5ポイントの縮小と、総じて売上額の振幅よりも採算見通しの振幅幅が大きく表れた。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 33.6	△ 25.0	△ 53.0	△ 41.3
建 設 業	△ 38.2	△ 47.4	△ 28.0	△ 52.0
小 売 業	△ 54.3	△ 52.1	△ 62.8	△ 53.4
サービス業	△ 47.7	△ 43.6	△ 63.7	△ 57.1

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 38.9	△ 33.5	△ 67.6	△ 47.1
建 設 業	△ 47.4	△ 48.5	△ 36.0	△ 48.0
小 売 業	△ 50.9	△ 48.4	△ 64.2	△ 52.5
サービス業	△ 46.6	△ 43.0	△ 57.8	△ 46.7

2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

主要項目において売上額DIは、前期比マイナス幅が2.9ポイント縮小し、採算はマイナス幅が△13.0ポイント、資金繰り△13.4ポイントと拡大した。

売上額DI値は若干改善したものの、売上額が「減少・悪化」の回答が全体の67.7%を占めており、受注環境は依然として厳しい。

一方、来期の見通しは、売上額、採算が改善に向かい、資金繰りは横ばいと予測される。

経営上の問題点は「需要の停滞」を第一位に掲げた企業が全体の55.2%（前期59.4%）であり、今期も受注要因が主流となっている。

新規設備投資実施企業は、全体の11.8%であり、来期の設備を計画している企業も、全体の14.7%と増加した。

② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加・上昇」と回答した企業は、全体の14.7%で前期と同率であった。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比2.9ポイント減少の67.7%となり、結果として売上額DI△53.0は前期比2.9ポイントの改善となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)

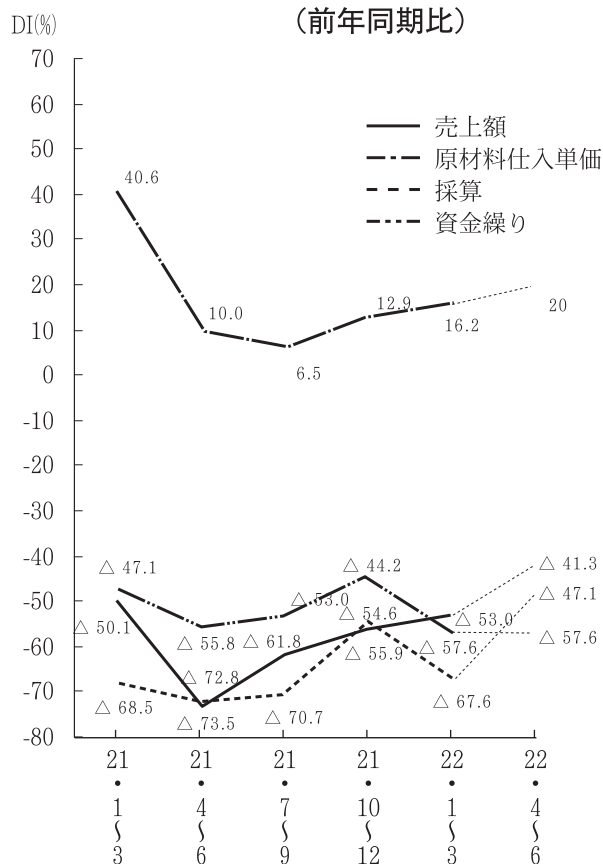
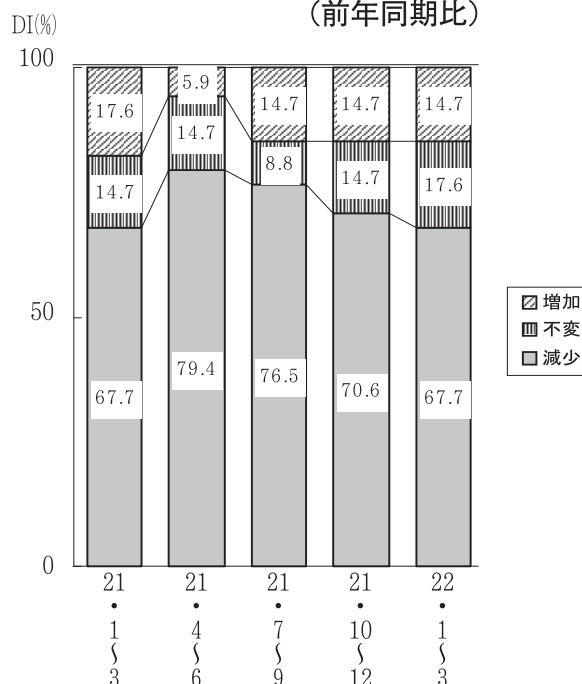


図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)



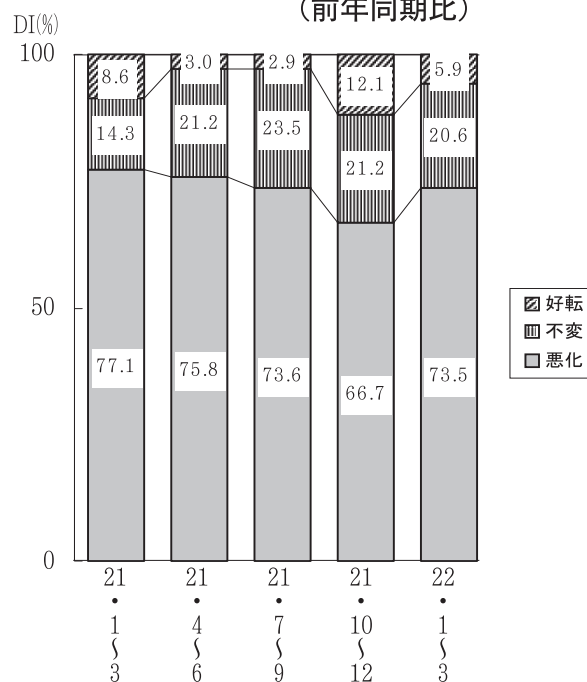
(b) 採 算

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の 5.9%で 6.2 ポイント減少した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は 73.5%で 6.8 ポイント増加した。

その結果、採算DIは 13.0 ポイント減の△67.6(前期△54.6)と悪化した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



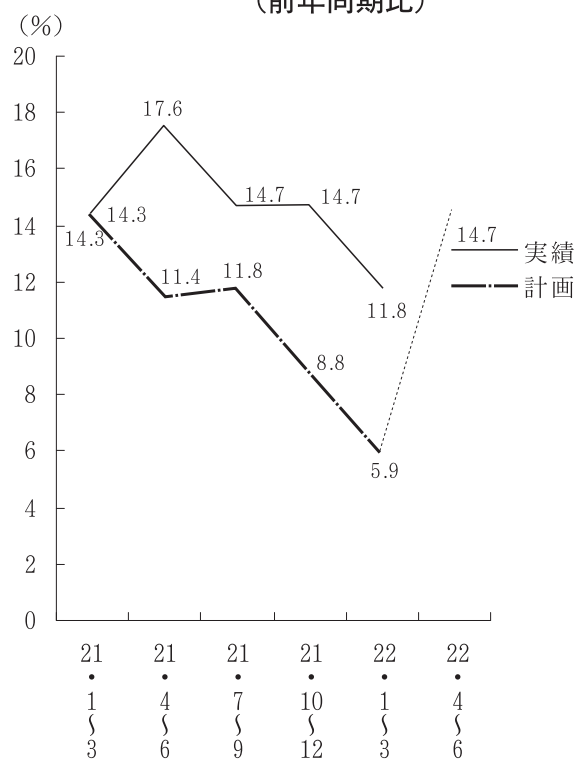
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の 11.8% (前期 14.7%) で、若干減少した。

その設備内容は、生産設備とOA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 14.7%で、その設備内容は、生産設備、付帯施設、福利厚生施設を計画している。

図 1 - 4 設備投資の状況
(前年同期比)

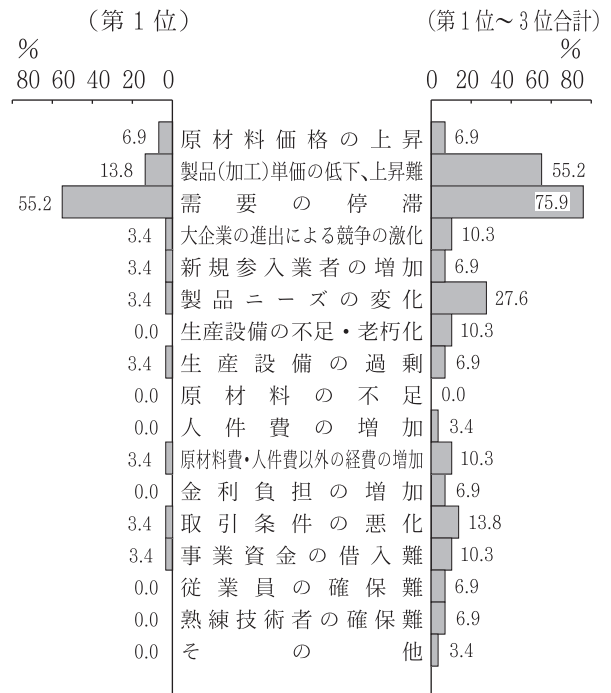


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(55.2%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(13.8%)、「原材料価格の上昇」(6.9%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(75.9%(複数回答以下同じ))、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(55.2%)、「製品ニーズの変化」(27.6%)と続いている。

図1-5 経営上の問題点



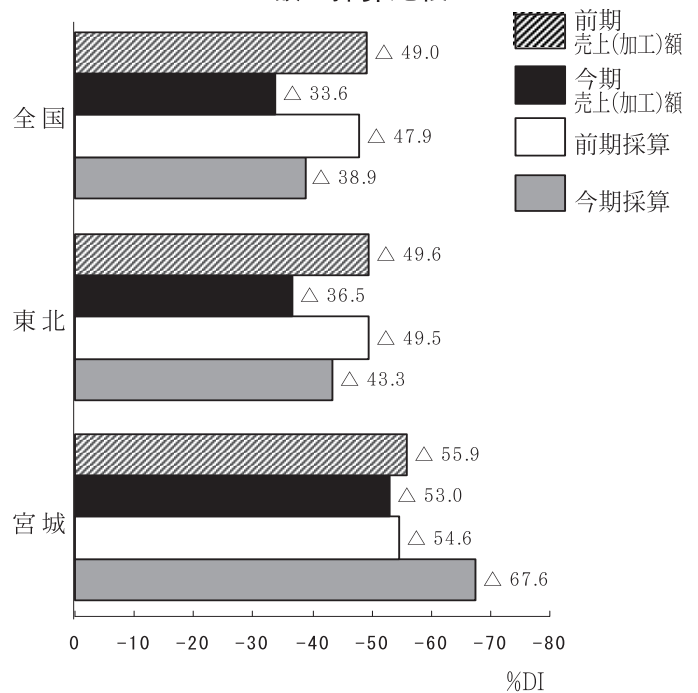
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城ともマイナス幅が縮小したが宮城の縮小幅はわずかだった。

一方、採算DIは、全国、東北はマイナス幅が縮小傾向にあるが、宮城は13.0ポイント拡大した。

なお、業況(自社)DIは、全国が△35.4(前期△46.5)、宮城は△47.1(前期△57.5)であり、自社の業況認識については共にマイナス幅が縮小された。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

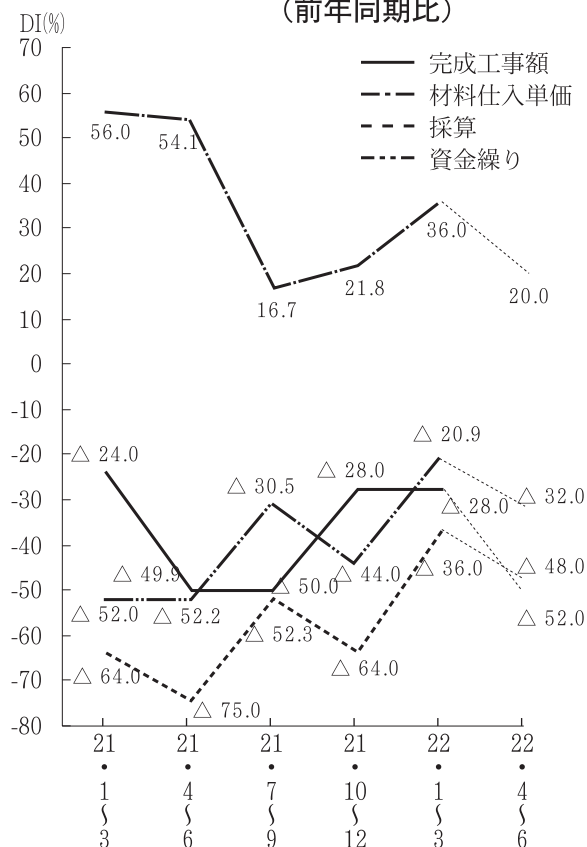
完成工事額は横ばい、反面、採算は28.0ポイント改善した。資金繰りも前期比23.1ポイント改善し、採算、資金繰りとも前期と比較しマイナス幅が縮小した。

経営上の問題点として、「請負単価の低下・上昇難」、「民間需要の停滞」、「官公需要の停滞」が前期同様上位を占めた。

なお、業況DI Δ 43.5(前期 Δ 68.3)も改善。

来期見通しについては、完成工事額、材料仕入単価、採算、資金繰りともに厳しい見通しとなっている。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

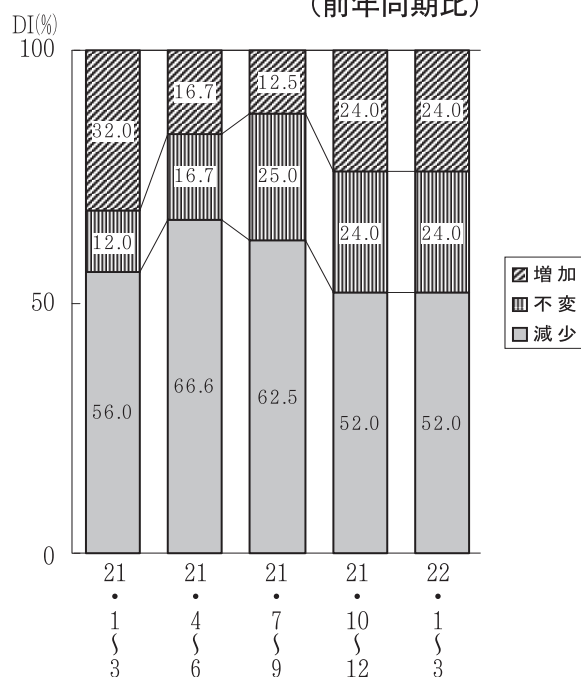
(a) 完成工事額

前年同期比で「増加・上昇」回答は全体の24.0%(前期24.0%)であり、「減少・悪化」と回答した企業も、全体の52.0%(前期52.0%)であり変化がなかった。

その結果、完成工事高DIは Δ 28.0(前期 Δ 28.0)と小康状態となった。

来期の見通しは、今期に比較して下降傾向にあり、依然として厳しい経営環境がうかがえる。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

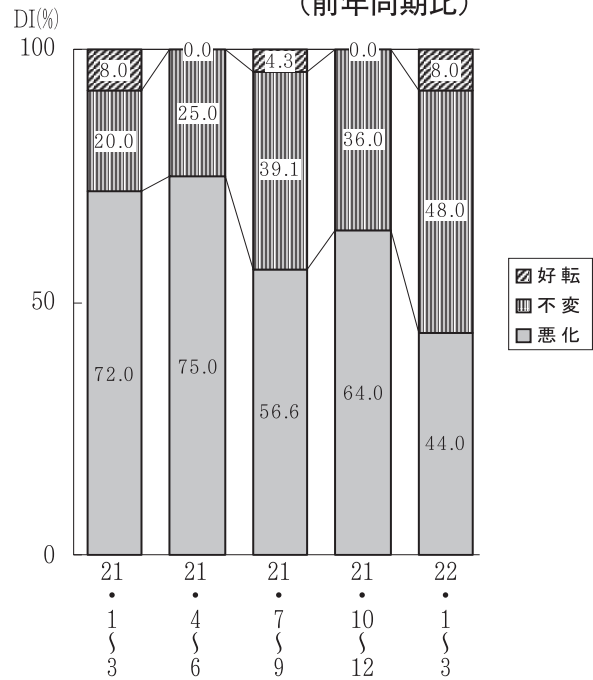


(b) 採算

前年同期比で「増加・上昇」回答は全体の8.0%(前期0%)であり、一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比20.0ポイント減少し44.0%で、採算DIは、前期比28.0ポイント上昇して△36.0とマイナス幅が大幅に縮小した。

しかしながら、来期の採算見通しは、厳しさを増すと予測されている。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)

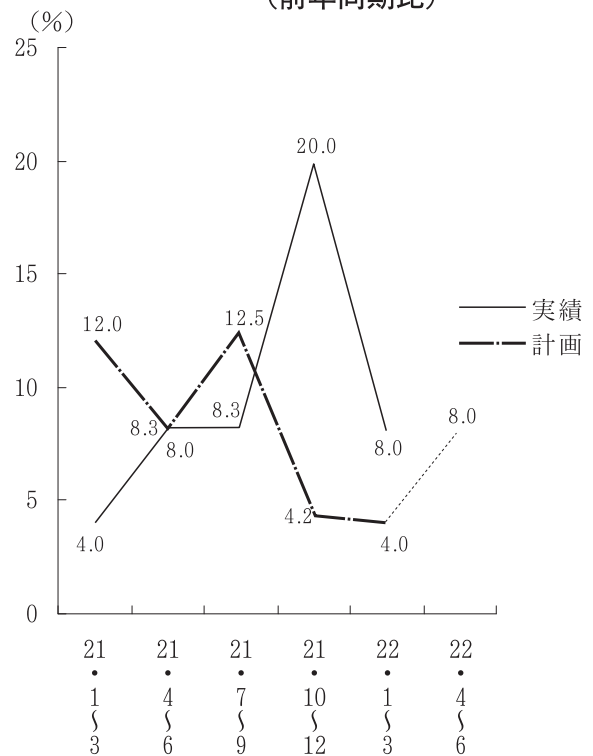


(c) 設備投資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の8.0%で、その設備内容は、車両運搬具、付帯施設、OA機器等である。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の8.0%と依然低水準であり、その設備内容は、建物、車両・運搬具、福利厚生施設を計画している。

図2-4 設備投資の状況
(前年同期比)



(d) 経営上の問題点

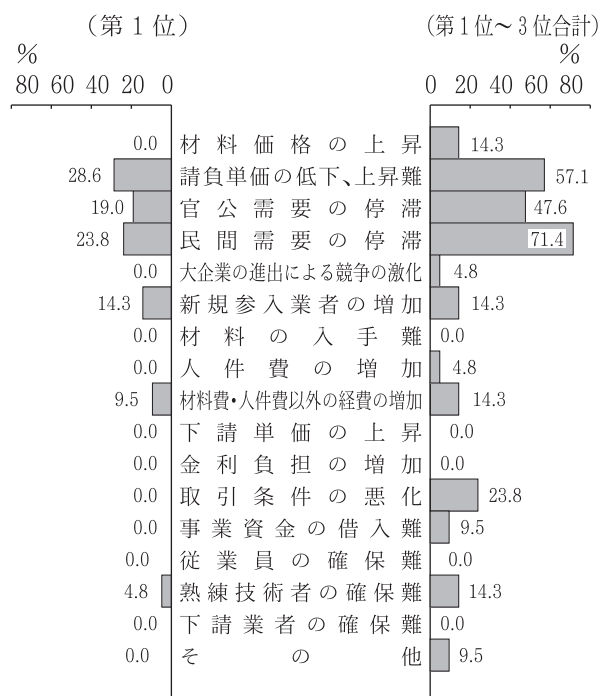
重要度第1位は、「請負単価の低下・上昇難」(28.6%)、次いで「民間需要の停滞」(23.8%)、「官公需要の停滞」(19.0%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」(71.4% (複数回答以下同じ))、「請負単価の低下・上昇難」(57.1%)、「官公需要の停滞」(47.6%)と続いた。

民間需要、官公需要といった「需要問題」が主体であり、問題として大きな比重を占めている。

なお、前期まで問題として重要度が高かった「大企業進出による競争の激化」は今回上位3位合計で4.8%に止まった。

図2-5 経営上の問題点



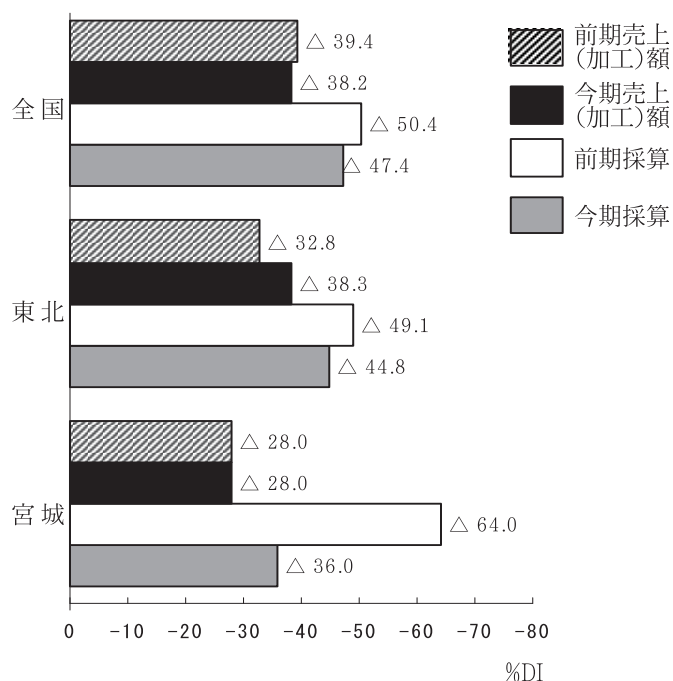
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額(完成工事額)は、全国、東北、宮城ともに概ね横ばい状態であった。

採算は、全国、東北、宮城ともに改善した。特に宮城は28.0ポイントと大幅にマイナス値が縮小した。

来期見通しについては、売上額(完成工事額)は、全国、宮城ともにマイナス幅が拡大すると予測され、採算面においても同様の見通しとなっている。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



(3) 小売業の動向

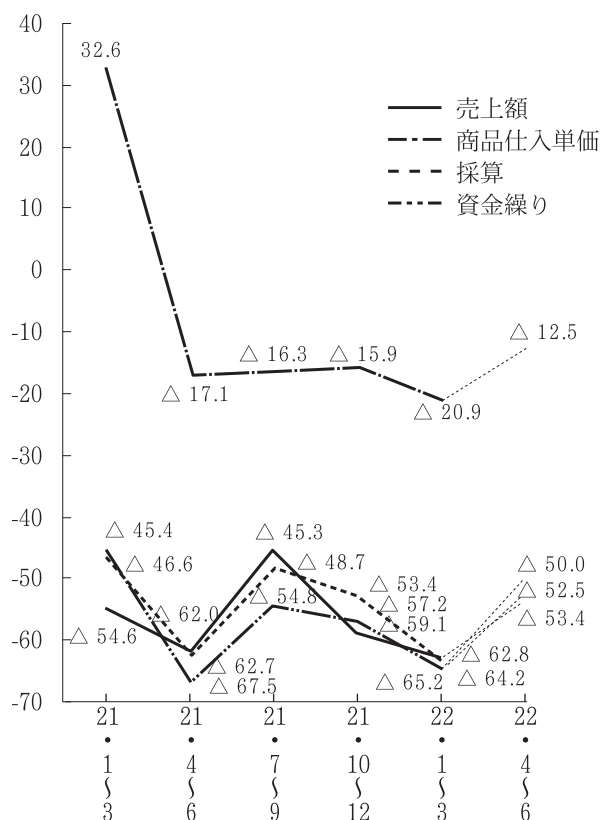
① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△3.7ポイント、採算D Iは△10.8ポイントそれぞれマイナス幅が拡大したが、自社の業況D Iは△57.1（前期△65.0）とマイナス幅が7.9ポイント縮小した。

借入難度については、長・短資金ともに緩和傾向にあるものの、資金繰りD Iは、△65.2と前期比△8.0ポイントマイナス幅が拡大した。

来期の見通しは、売上額、採算、資金繰りともに、概ね改善される見通しとなった。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



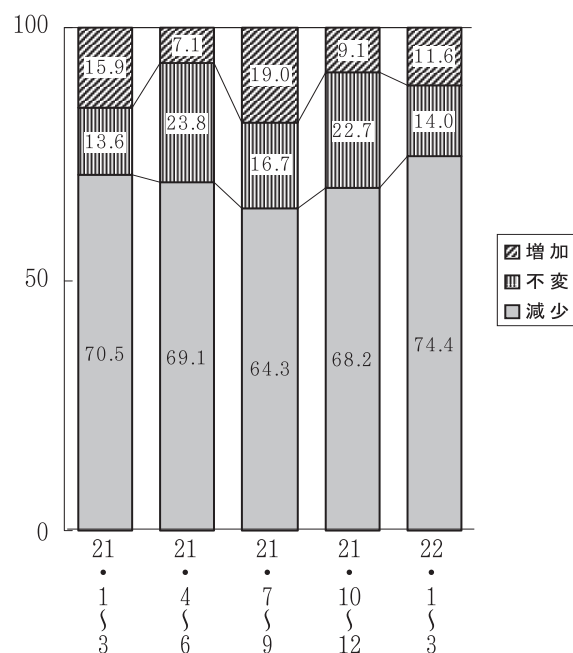
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の11.6%（前期9.1%）と2.5ポイント増加した。

一方、「減少・悪化」の回答も全体の74.4%（前期68.2%）と6.2ポイント増加し、その結果、売上額D Iは前期比マイナス幅が3.7ポイント拡大した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)



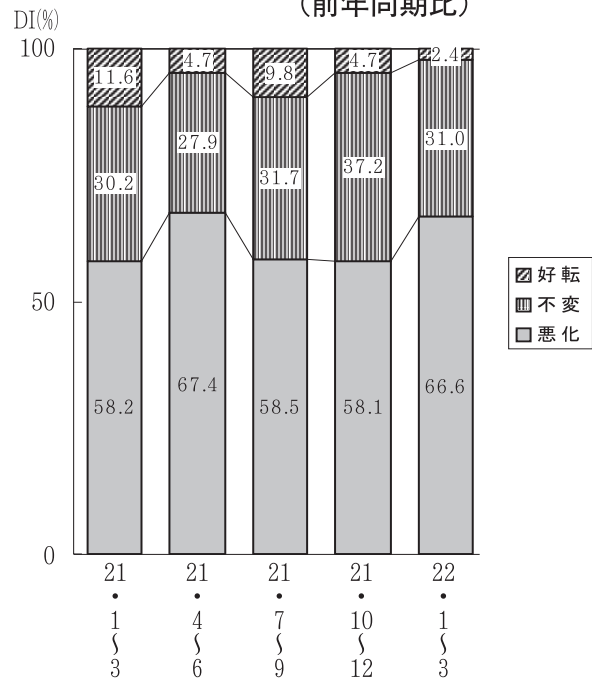
(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は、全体の2.4%で前期比2.3ポイント減少した。

一方、「悪化・低下」の回答は全体の66.6%で前期比8.5ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△64.2となり、前期比マイナス幅は10.8ポイント拡大した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

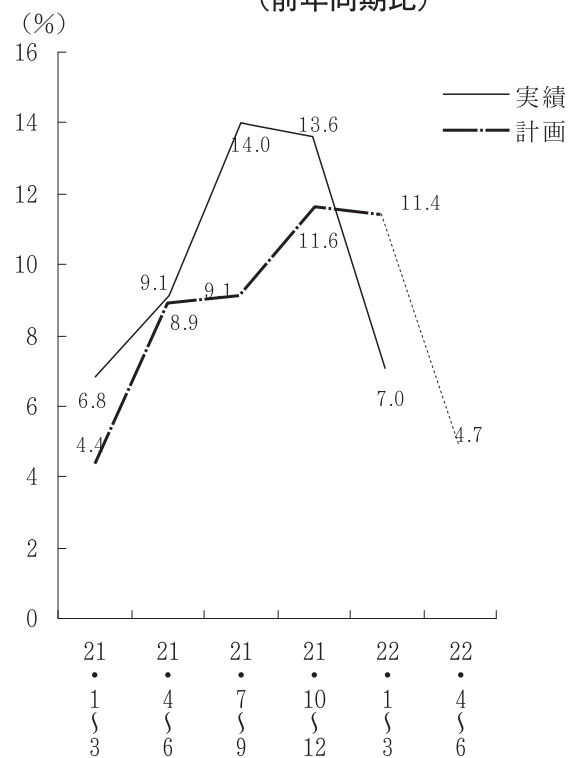


(c) 設 備 投 資

今期の設備投資実施企業割合は、全体の7.0%（前期13.6%）と減少した。その内容は、車両運搬具、OA機器である。

来期に設備投資を計画している企業は4.7%で、その内容は、車両運搬具、付帯施設を想定している。

図3-4 設備投資の状況
(前年同期比)

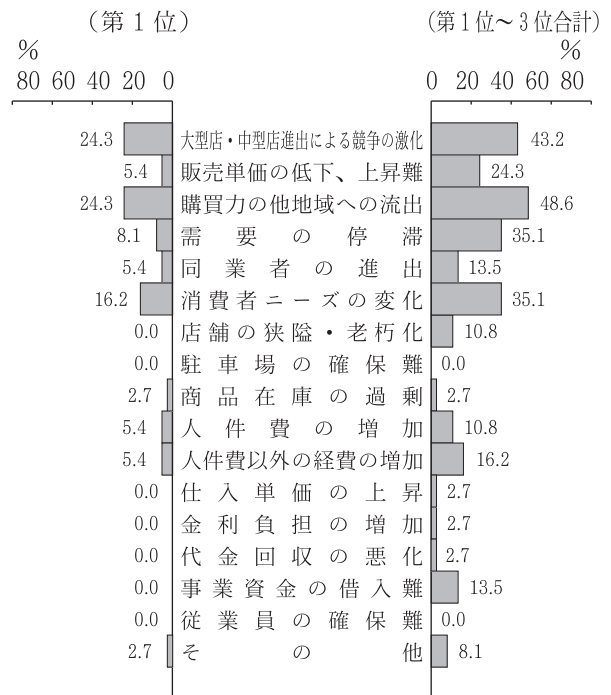


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(24.3%)と「購買力の他地域への流出」(24.3%)が同率で並び、次いで「消費者ニーズの変化」(16.2%)、「需要の停滞」(8.1%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計は、「購買力の他地域への流出」(48.6%(複数回答以下同じ))、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(43.2%)、「消費者ニーズの変化」(35.1%)と「需要の停滞」(35.1%)が同率で続く結果となった。

図3-5 経営上の問題点



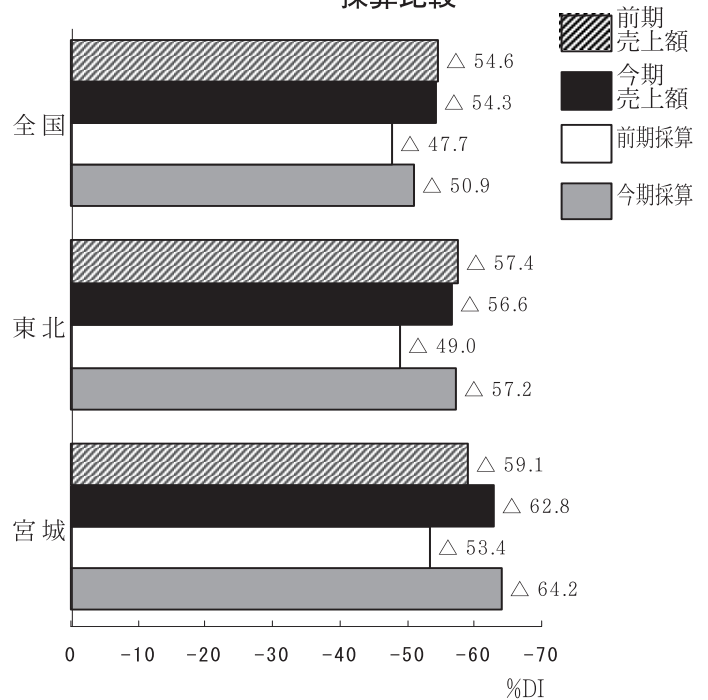
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、東北がわずかながらマイナス幅を縮小したが、宮城はマイナス幅を前期比△3.7ポイント拡大した。

採算は、全国、東北、宮城ともに悪化し、特に、宮城はマイナス幅を10.8ポイント拡大し、前期に引続き、売上額、採算ともに悪化した。

一方、業況(自社)DIは、全国が△52.7(前期△51.2)、宮城は△57.1(前期△65.0)であり、自社の業況認識については全国との格差を縮めた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

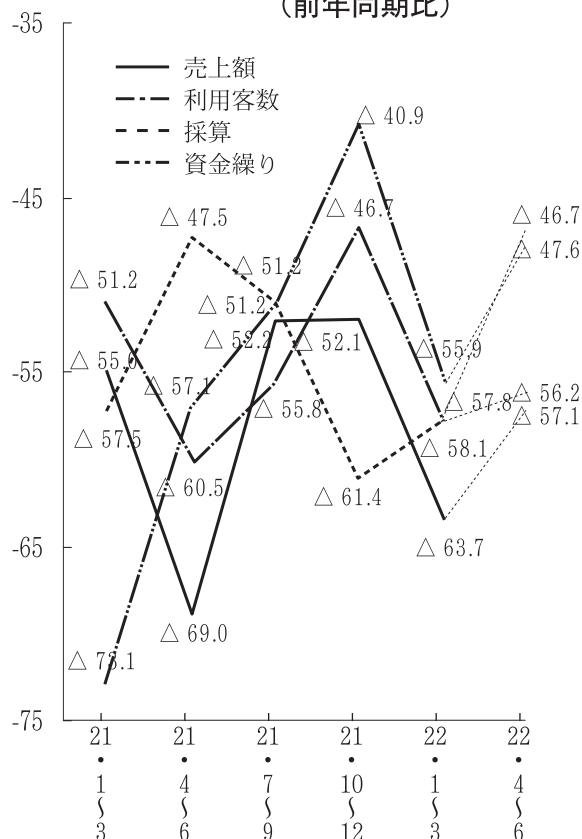
売上額D Iはマイナス幅を△11.6ポイント拡大し、採算D Iは3.6ポイント縮小した。

資金繰りD Iはマイナス幅を△15.0ポイント拡大したが、長・短資金借入環境や借入金利については、大きな変化もなく、売上額の減少が資金繰りの厳しさをもたらししていると推測できる。

業況(自社)D Iは△55.9(前期△55.6)であり自社の業況認識に変化がみられない。

来期見通しについては、売上額、採算、資金繰り共にマイナス幅を縮小させる予測となっている。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

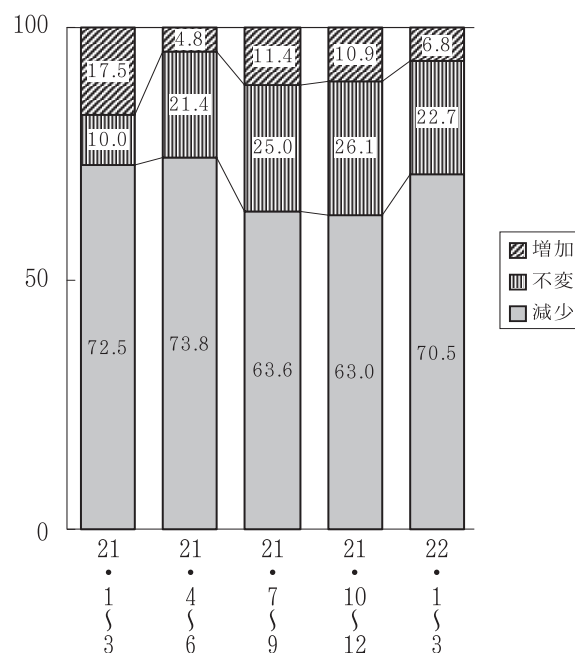
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」の回答は、4.1ポイント減少の6.8%である。

一方、「減少・悪化」の回答は、全体の70.5%となり、前期比7.5ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは△63.7でマイナス幅が前期比11.6ポイント拡大した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)



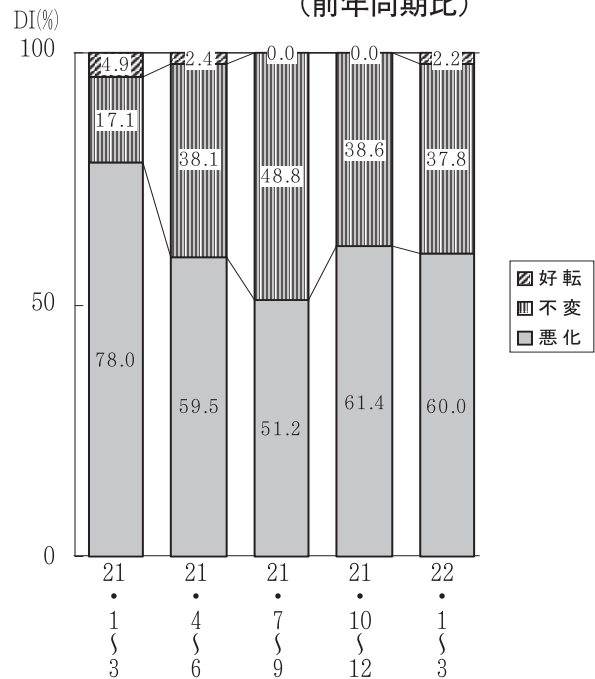
(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は、全体の2.2%で3期ぶりに回答がみられた。

一方、「低下・悪化」の回答企業は、全体の61.0%であり、前期比1.4ポイント減少した。

その結果、採算DIは△57.8となり、マイナス幅を前期比3.6ポイント縮小した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



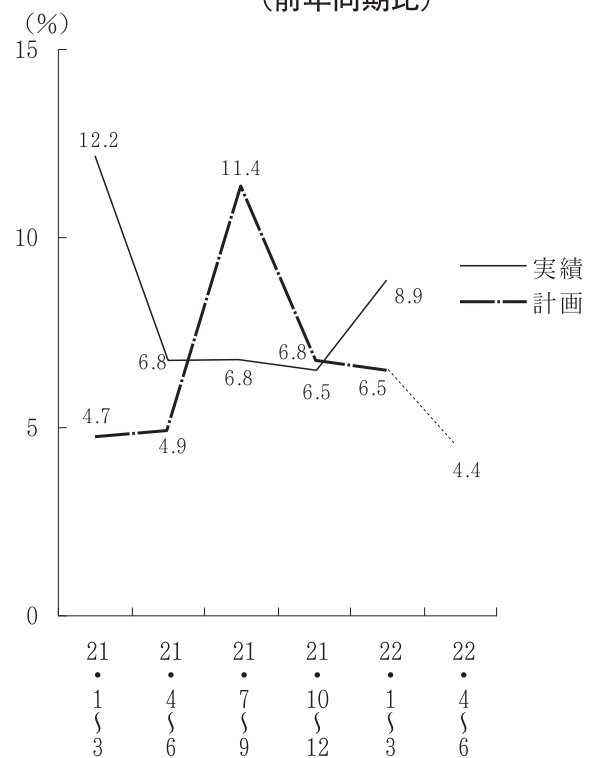
(c) 設 備 投 資

今期、設備投資を実施した企業は、全体の8.9%(前期6.5%)であった。

その設備内容は、車両運搬具、付帯施設、OA機器等である。

来期に設備投資を計画している企業割合は、4.4%であり、その内容も、車両・運搬具、サービス設備等となっている。

図4-4 設備投資の状況
(前年同期比)

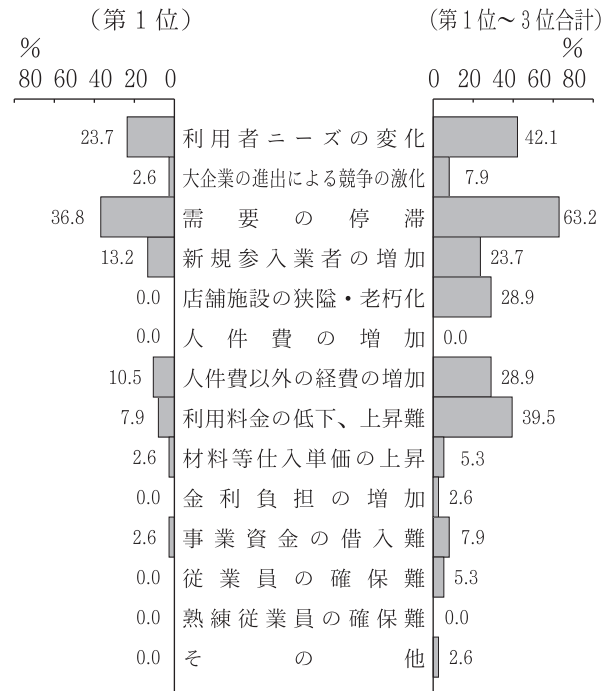


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(36.8%)、「利用者ニーズの変化」(23.7%)、「新規参入業者の増加」(13.2%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(63.2%(複数回答以下同じ))、「利用者ニーズの変化」(42.1%)「利用料金の低下・上昇難」(39.5%)、の順となっている。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

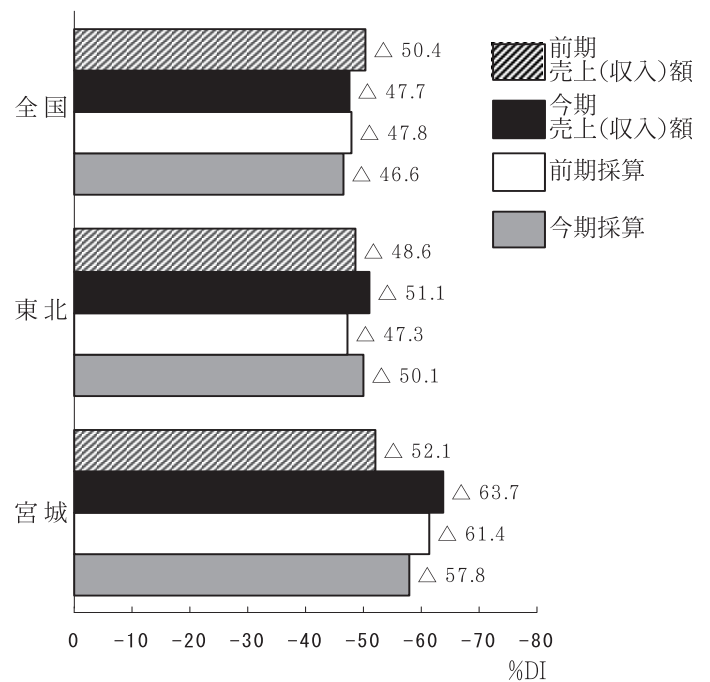
売上額DIは、全国、東北においては前期並みの水準で推移したが、宮城はマイナス幅を11.6ポイント拡大した。

採算DIは、全国、東北、宮城ともに横這い。資金繰りDIは、全国、東北は変化なく、宮城はマイナス幅を15.0ポイント拡大した。

資金借入難度については、共に前期並みの推移であり、特に変化は見られない。

業況(自社)DIについては、全国が△45.6(前期△47.2)、宮城は△55.9(前期△55.6)で、自社業況認識については、依然大きい格差が生じている。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています